

紅 白 編

第3回

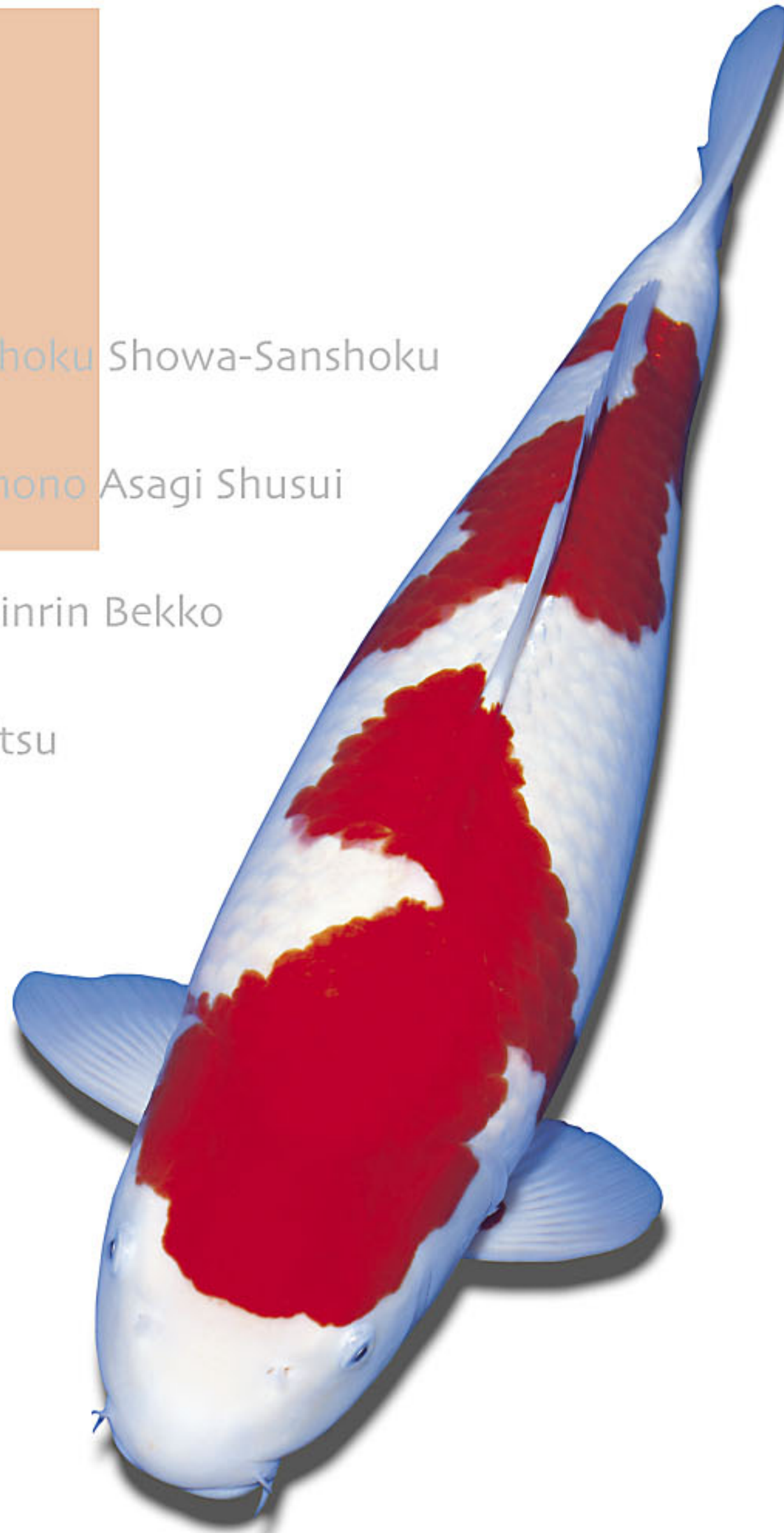
Kohaku Taisho-Sanshoku Showa-Sanshoku

Usturimono Hikarimono Asagi Shusui

Goshiki Kwarikoi Ginrin Bekko

Tancho Koromo Doitsu

Kujaku Kumonryu



人気企画・大菊拓朗（横浜鯉錦）の鯉錦セミナー。今回のテーマは『紅白』です。

最終回は権次郎、門兵衛、丸堂の紅白です。あまり変化しないイメージの紅白ですが、中には見違えるような姿になるものもいて、鯉錦の奥深さを感じることができるでしょう。

権次郎紅白の変化を追う

次は千葉の権次郎観賞魚産の紅白を見ていきます。これは2才で50cmぐらいです（26―A）。鱗友会の全国品評会で、50部総合優勝を受賞しました。背に鉄筋棒が入ったような感じの、とても特徴的な鯉です。目幅もあり、2才でもかなり完成された体型をしています。

そしてこれを1年立てて3才になると、かなりボリュームが付きまして（26―B）。緋が増える傾向にある鯉でしたので、一段目と二段目の間の緋がくっついてしまったんですが、それほど気にならないと思います。この時は東京大会で準優勝でした。

さらに1年立て、4才ではこうなりました（26―C）。肌が抜けて白地がシャープになり、これで70部で国魚賞を取りました。ずんぐりしていたので腹に来るかなと思ったんですが、そうはならず順調に育ってくれました。その後オーナーの希望でさらに1年立てるとこうなりました（26―D）。紅が厚くなり覆鱗も

出てきて、大人の鯉になってきました。

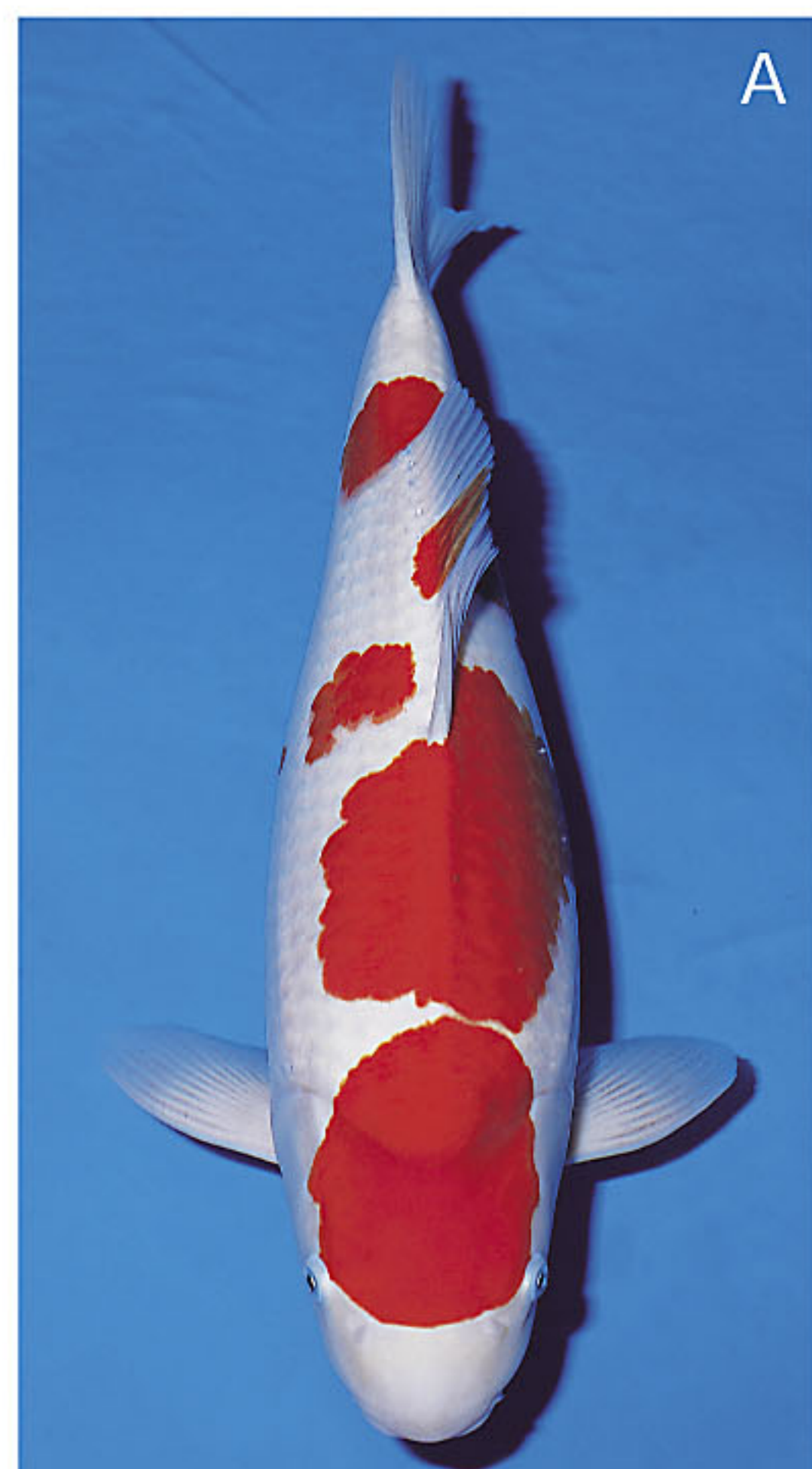
そして6才になった現在の姿がこれです（26―E）。5才時に比べると一段と緋が揚がり、緋盤の安定感が増してきました。2才の時はゴロンとした感じの鯉だったんですが、尾に肉が入って違和感のない体型になりました。

門兵衛紅白の変化を追う

次は新潟の大塚養鯉場（門兵衛）産の紅白です。紅白ではそれほど有名ではありませんが、とても気に入った鯉でしたので、これを逃す手はないと思い高かったのですが買いました（笑）（27―A）。親鯉は星金と仙助系の掛け合わせです。

少し細身の鯉なのですが、各パーツに注目すると伸びる要素があると思います。また、紅に均一性があることと、サシが綺麗なところが特徴的だと言えます。

これは越冬明けの春の姿です（27―B）。野池から揚げた時の粗さがなくなり、緋盤の安定感が増しました。



②⑥／権次郎紅白

そして野池立てした秋の揚がりでは、しっかりと肉が入りボリュームが付き、いい鯉になりました(②⑦—C)。残念ながら中越地震でお亡く門兵衛さんが「この鯉だけは世に出したかった」と言うほどの鯉で、渾身の作でした。

もう1本門兵衛産の紅白を見てみましょう。3才の時です(②⑧—A)。これも星金系の鯉で、②⑦と同じような紅の質感をしているので、綺麗になるんじゃないかと思って求めてきました。

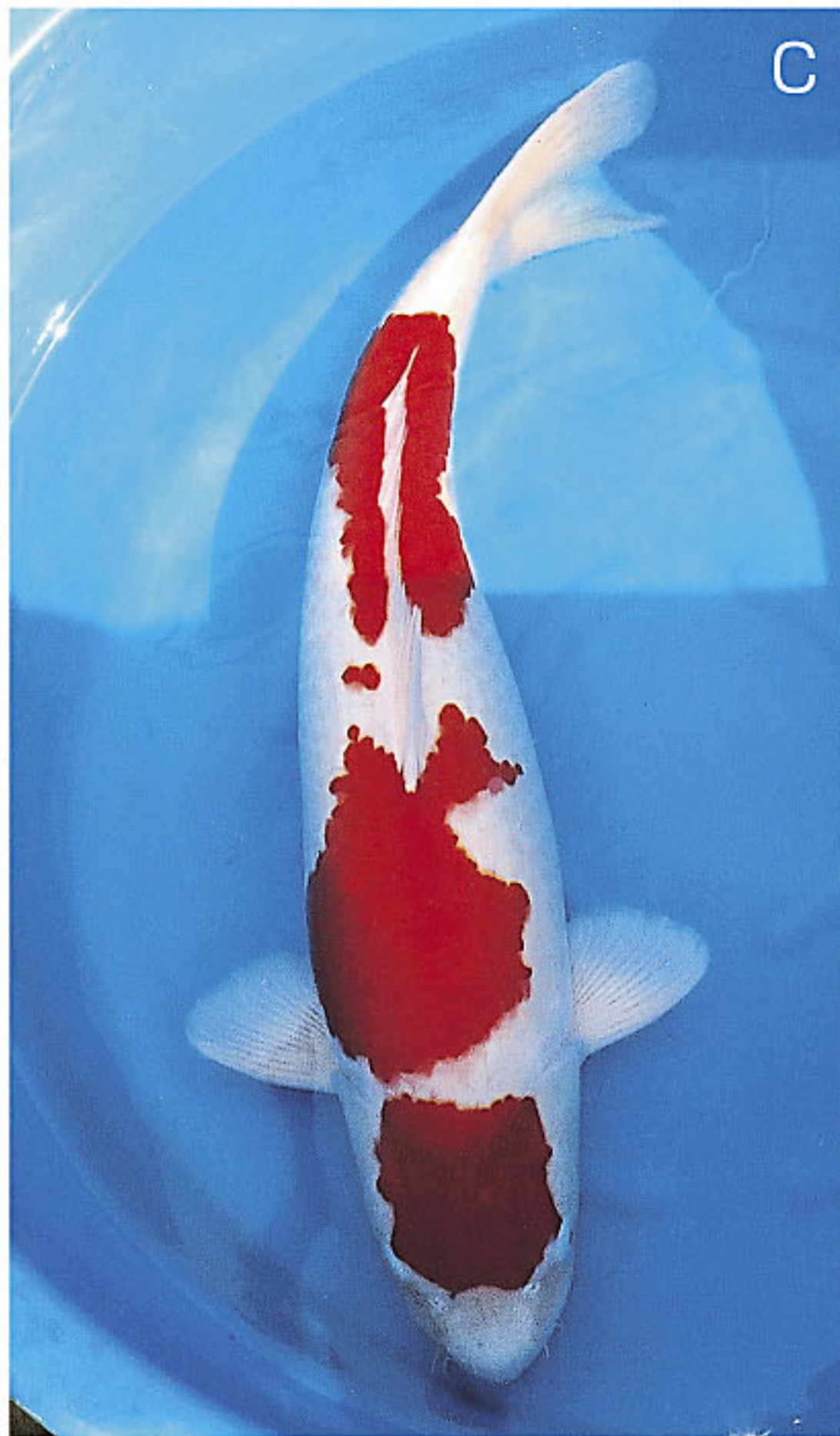
1年立てるとかなりボリュームが増してきました(②⑧—B)。複雑な模様ですが、白地が生きていききました。さらにもう1年飼ひ込むところになりました(②⑧—C)。どこまで大きくなって良くなるのが楽しみな鯉です。

丸堂紅白の変化を追う

最後に新潟の丸堂養鯉場産の紅白を見ていきましょう。これは神楽系と阪井の組み合わせによる当才です(②⑨—A)。オレンジ系の紅質で、キ



②⑦／門兵衛紅白



②⑧／門兵衛紅白



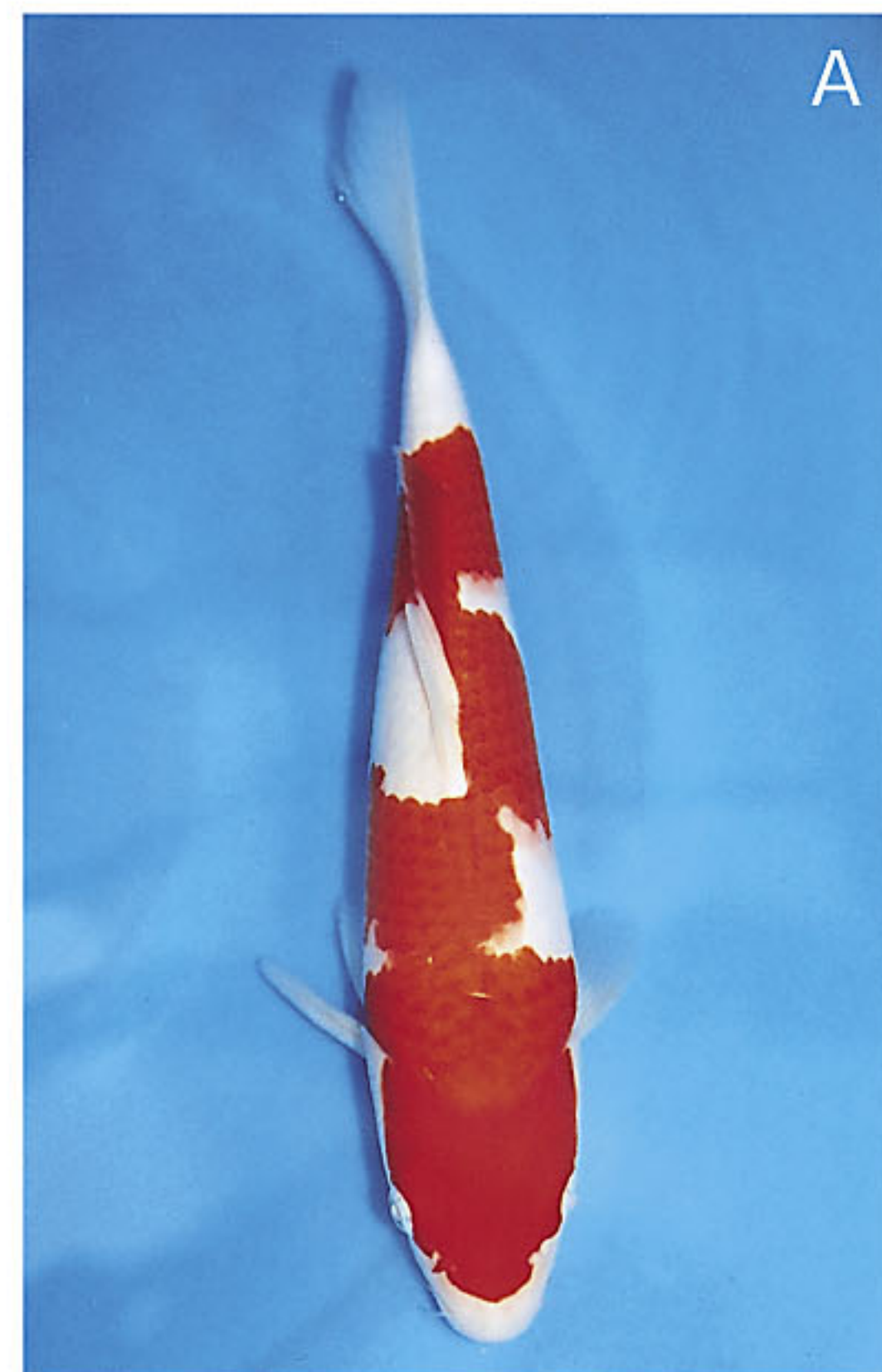
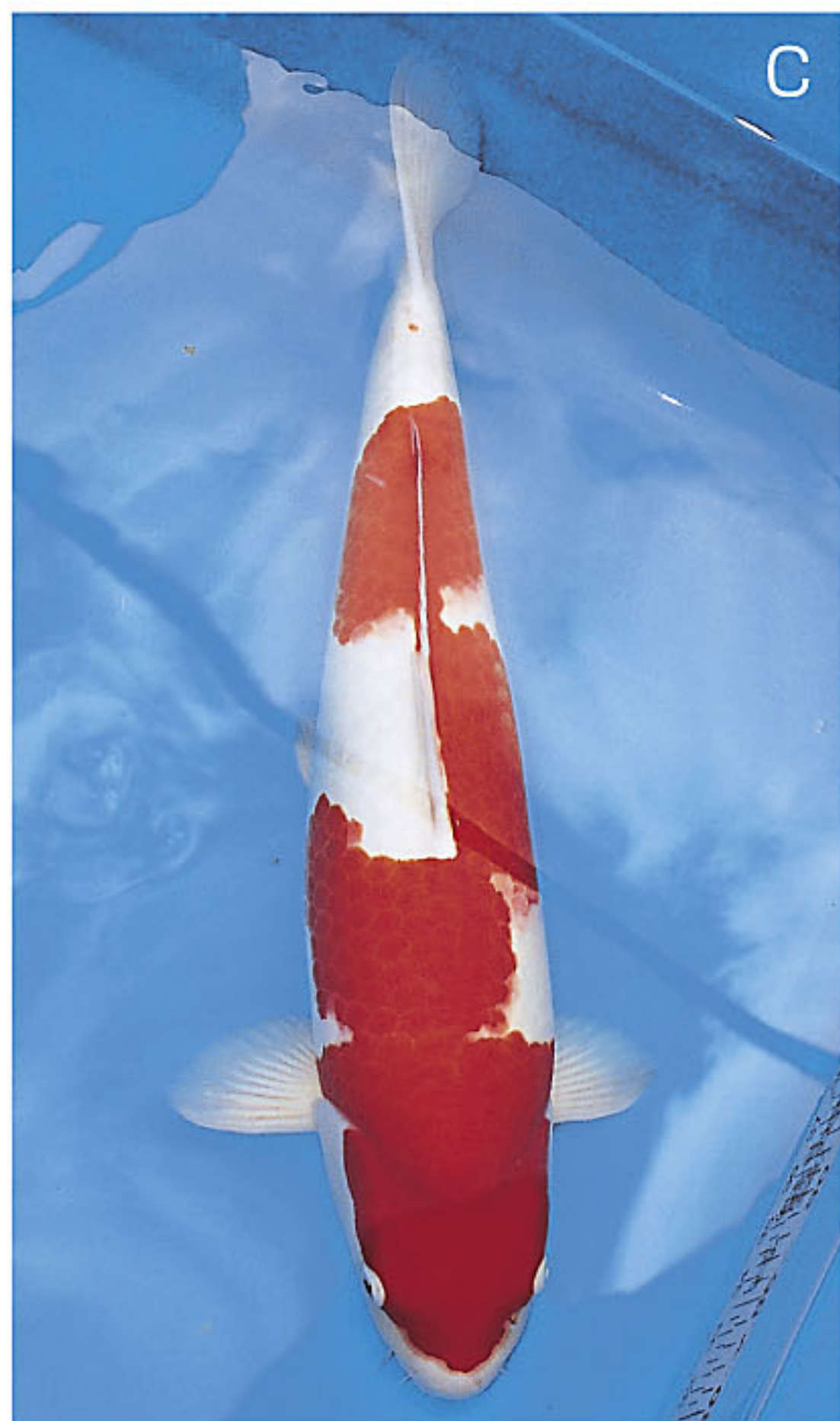
ワもサシも当才としては比較的シャープでした。体型もバランスが取れていて、特に目幅のある、顔つきのしっかりした紅白と言えます。

野池揚げりの姿がこれです(②⑨―B)。素直に伸びた体型で揚がってきました。大型化する系統の鯉は、2才ぐらいの時は比較的細身のものが大成すると言われていますが、この紅白もそのような姿です。緋盤に注目すると紅の厚みが増し、サシも少しずつ締まり始めてきています。

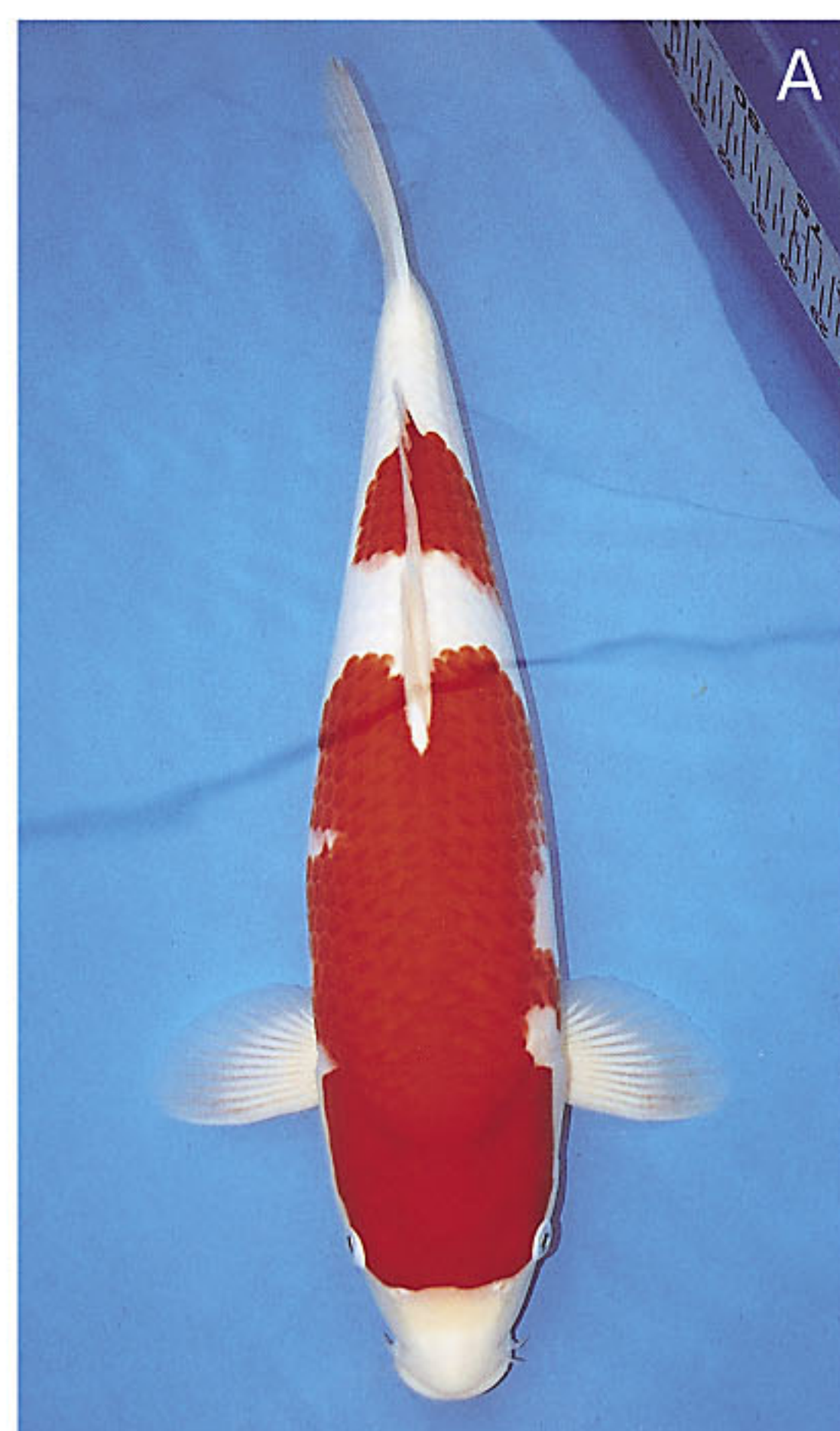
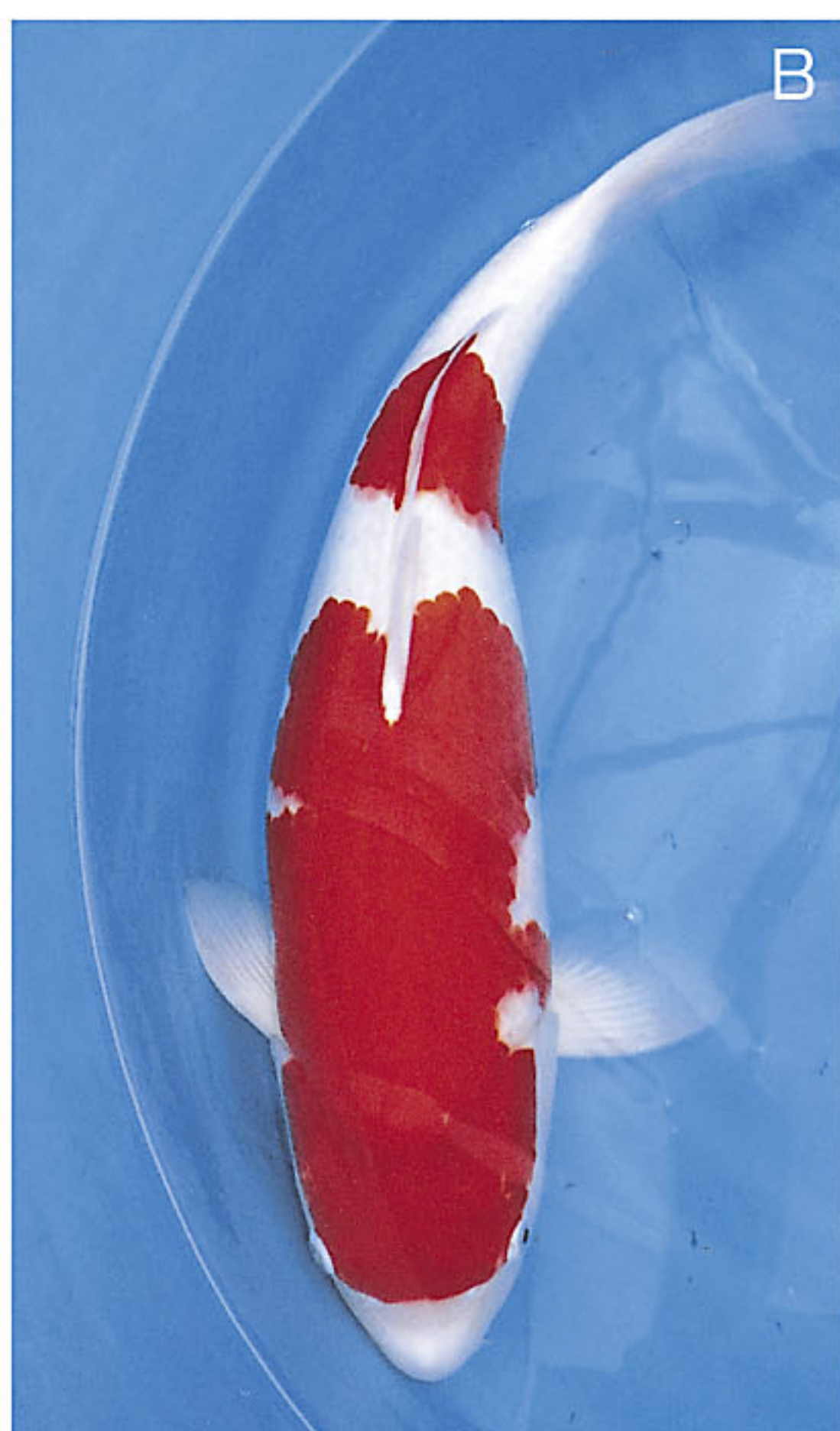
3才になると2才時に比べてボリユームが増し、成魚の風格が出てきました(②⑨―C)。サシもキワもほぼ完成に近い状態にまで決まり、オレンジ系の紅質も完熟した柿のような、深みのある紅になりました。

当才の時は尾止めが軽いと敬遠されそうですが、3才の姿を見ると緋盤と白地のバランスもちょうど良くなり、尾筒に肉が入ったことによつて模様の不足を感じさせない鯉になりました。

次は丸堂養鯉場の平澤久司社長が理想とする紅を持ち、池揚げの時に自画自賛した鯉の姉妹です(③⑩―A)。この写真は2才の姿で、足ら



②⑨／丸堂紅白



③⑩／丸堂紅白

ずの模様かもしれませんが、体の作りと紅質の良さで魅せる紅白になると思います、仕入れてきました。②⑨と同様に目幅がありバランスの取れたスタイルで、立て鯉としての必要条件を満たした鯉でした。

そして3才になるとより一層、神楽独特の明るい厚みのあるピンク紅になりました(③⑩—B)。

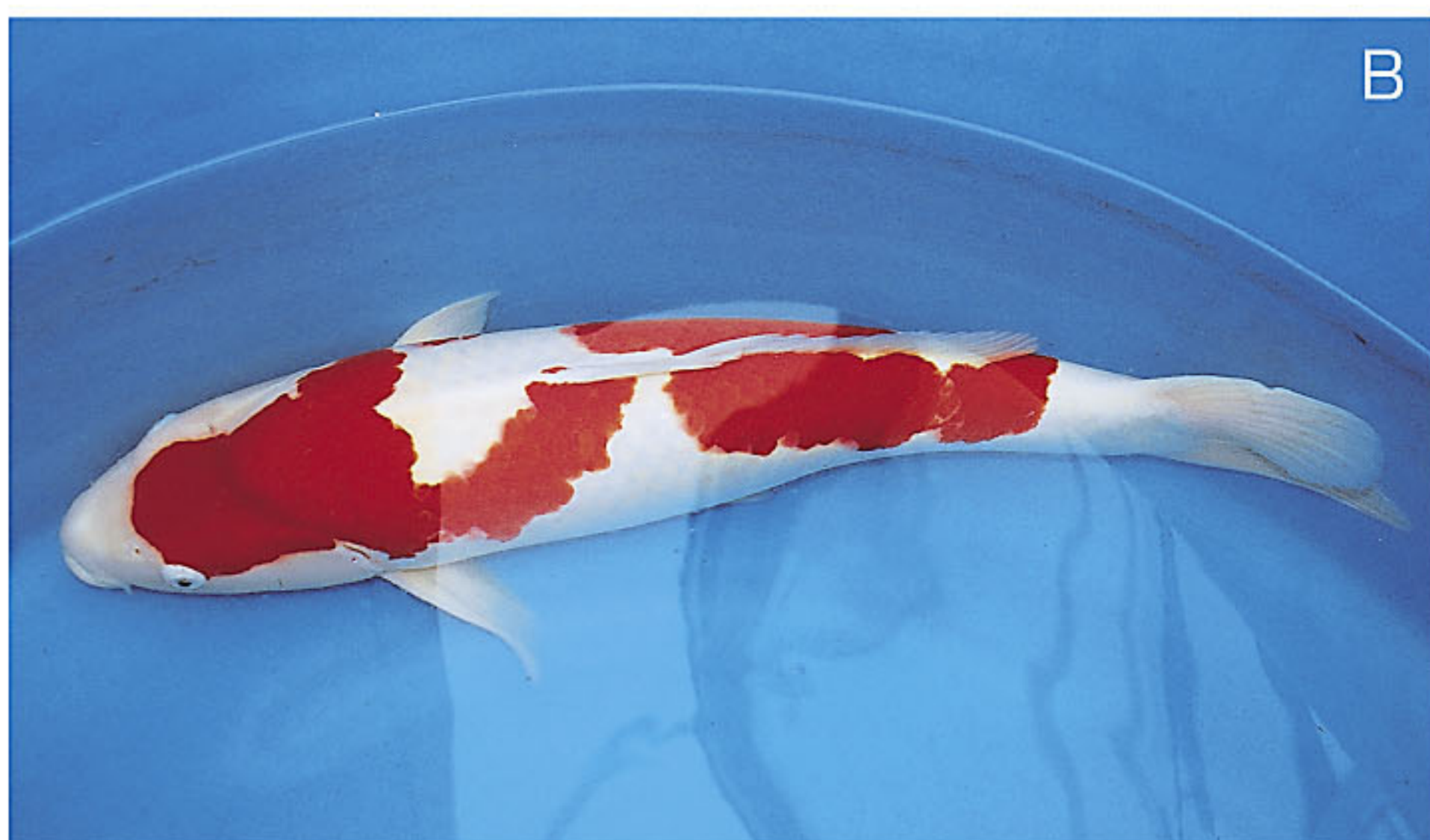
これは③⑩と同じ年に生まれた鯉ですが、親が違うのでタイプの異なる紅白です(③①—A)。

ユニークな緋模様が特徴的です。口の大きさ、各鰭の作り、そして何よりも口先から背鰭の波立てまでの長さがとても長い鯉で、大型化を予感させます。

そしてこれが3才の姿です(③①—B)。写真が横向きで申し訳ないのですが、紅の厚みが増し、丸染めのキワも決まってきました。背筋に鉄筋棒が入ったような頑丈な作りの鯉は腹ボテの心配もなく、この鯉もメス鯉でありながら腹のゆるみも全くない理想的な体型になってきました。

次は突き付けの当才魚です(③②—A)。ちよつと手を出しづらいガラ

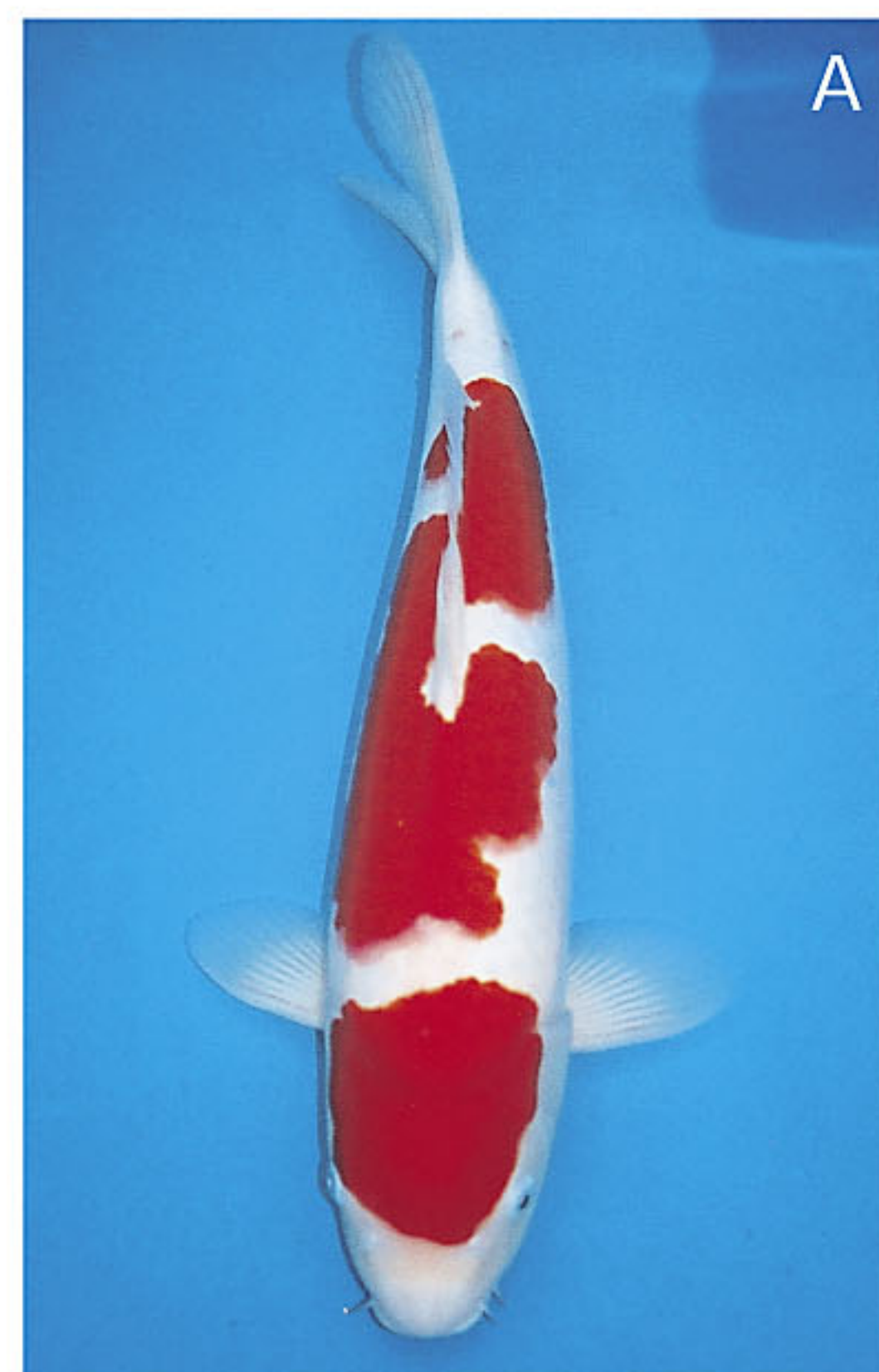
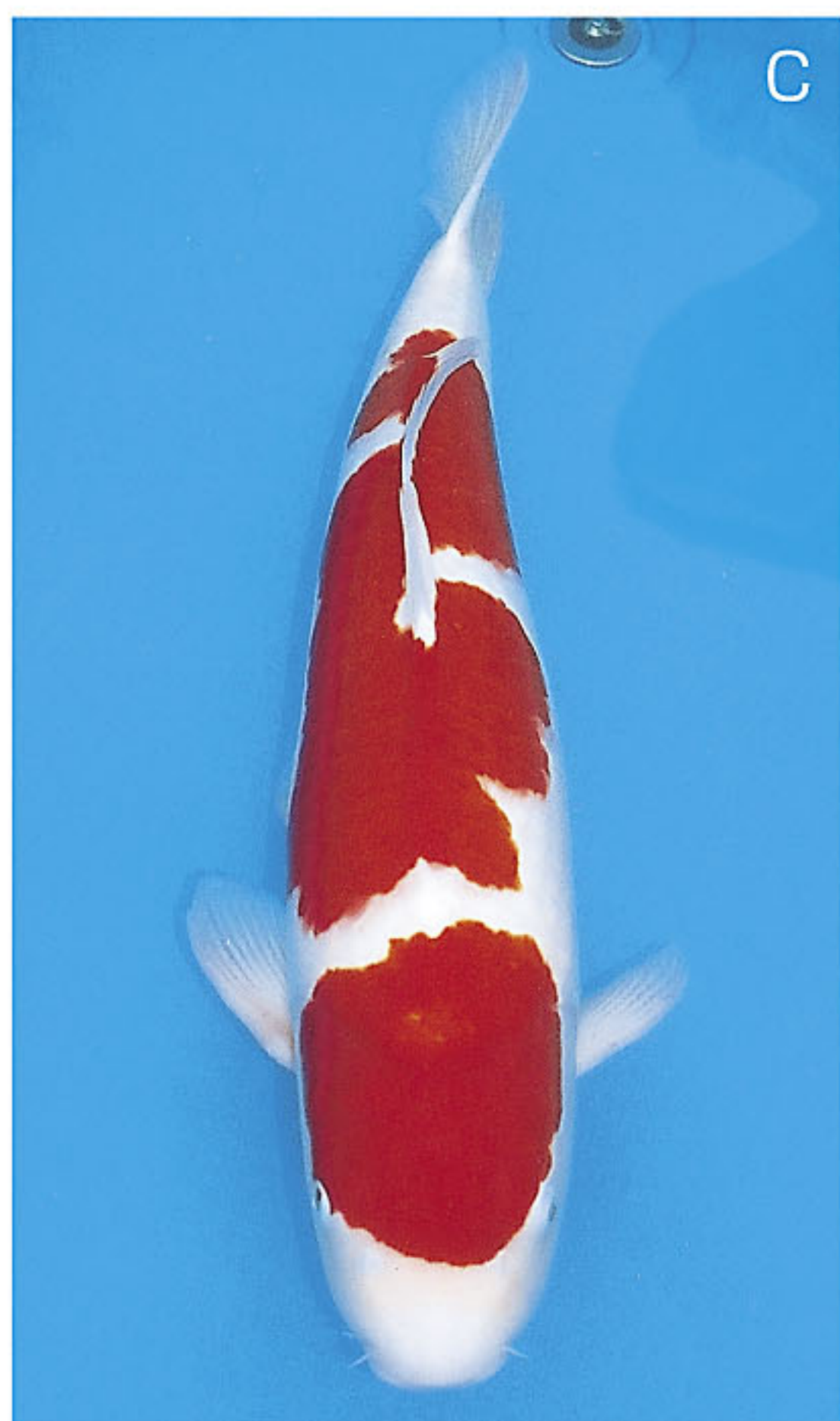
③①／丸堂紅白



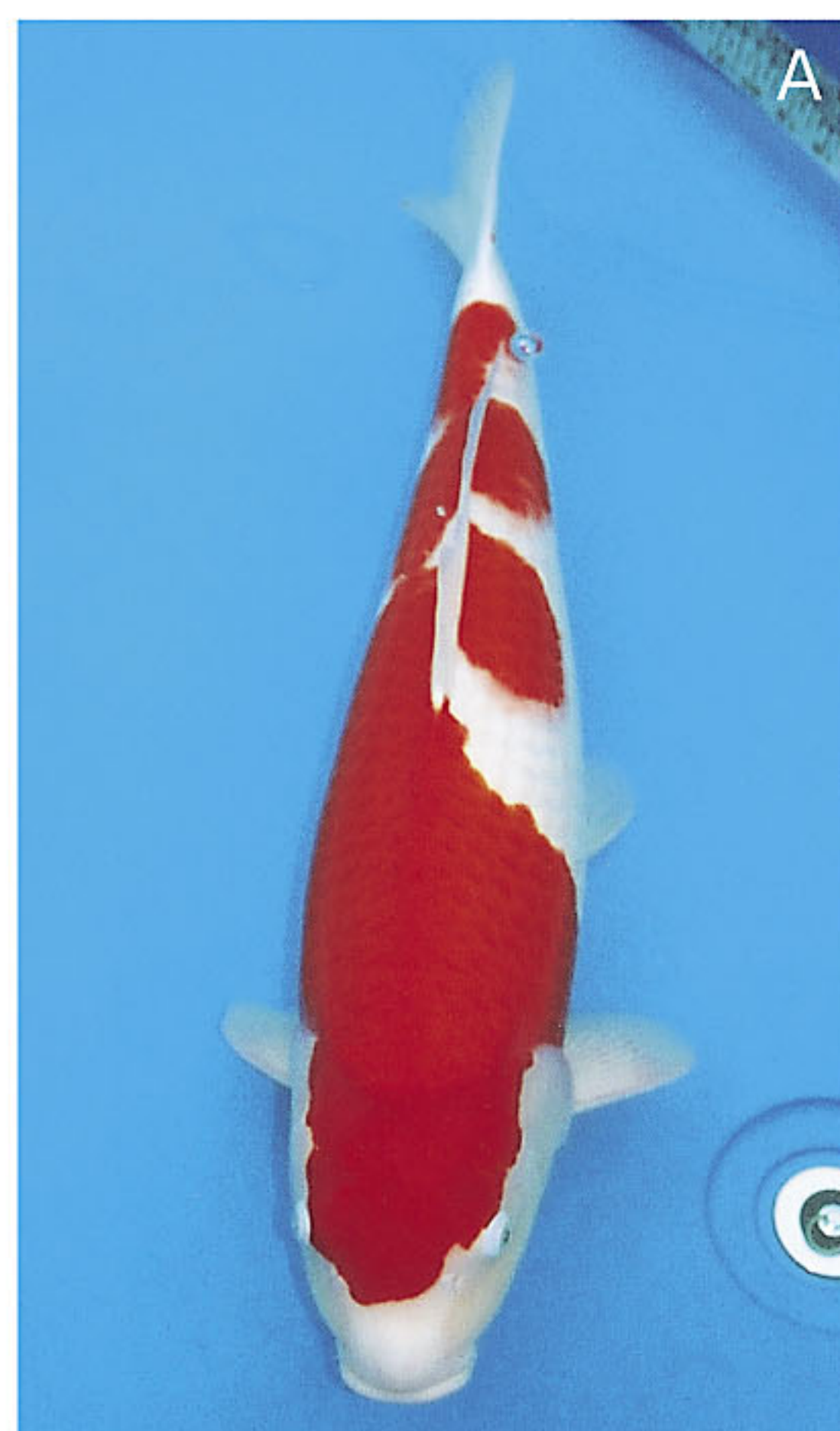
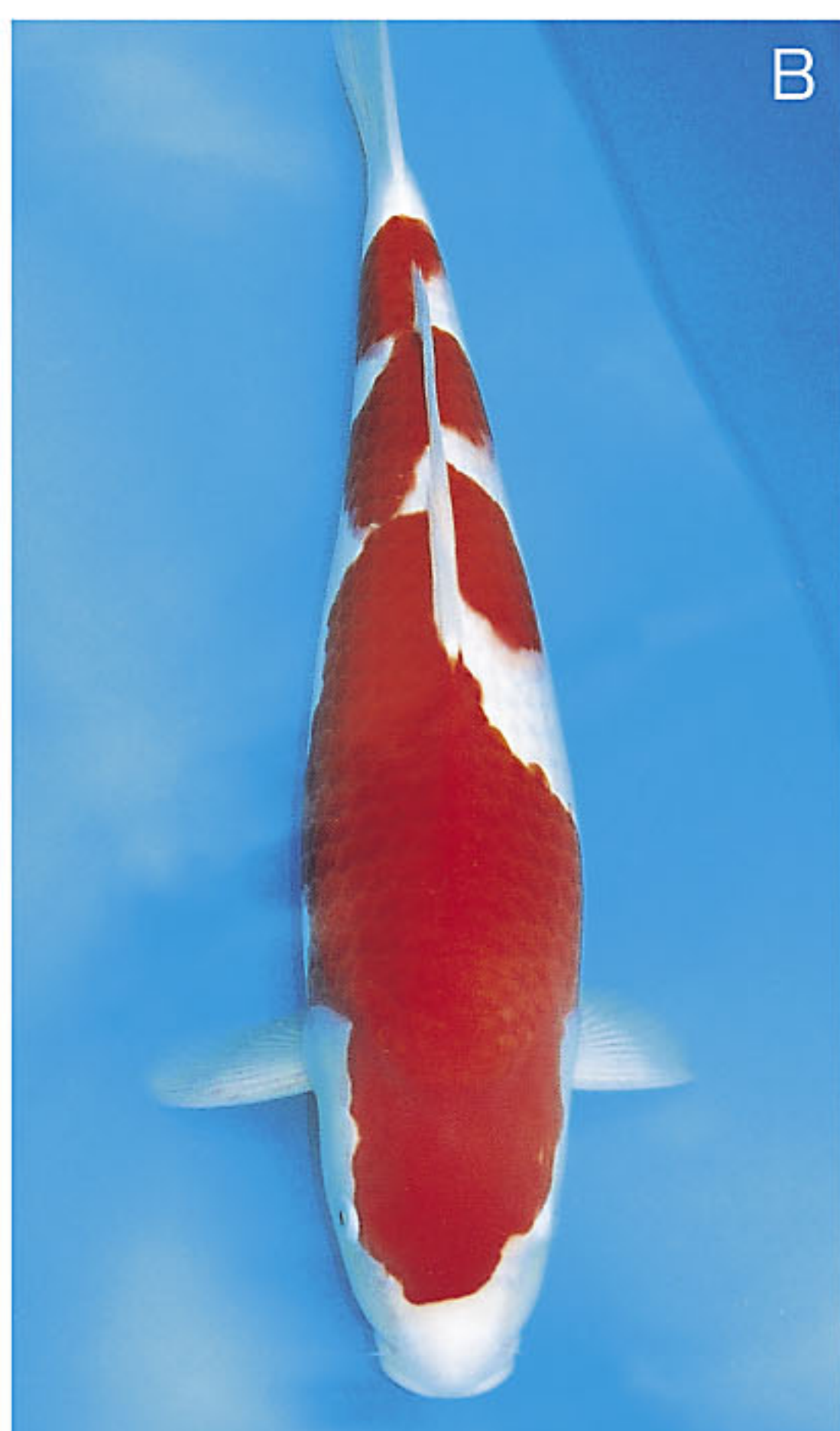
③②／丸堂紅白

かもしれませんが、2才でこうなりました(③②—B)。ポリウムが付いて、白地が少なかったのがだいぶ出てきました。切れ込みの白地も見せ場になってきましたね。そしてこれが3才になるとさらに紅が厚みを増し、大人になってきました(③②—C)。これも将来楽しみな鯉だと思います。

次は神樂系の紅白で③③の姉妹鯉です。これは2才の時の写真です(③③—A)。この鯉は神樂の血をよく引いていて、味のあるピンク紅と、



③③／丸堂紅白



③④／丸堂紅白

ちようにどいい量の半枚ザシが特徴です。

これを立てると3才でこうなりました(③③—B)。サシも完全に決まってきた、紅もより一層厚みを増してきました。そしてもう1年立てるとさらにボリユームが付き、尾にも肉が入ってきました(③③—C)。伸びは少し固いですが、良い味わいの紅白ではないかと思っています。

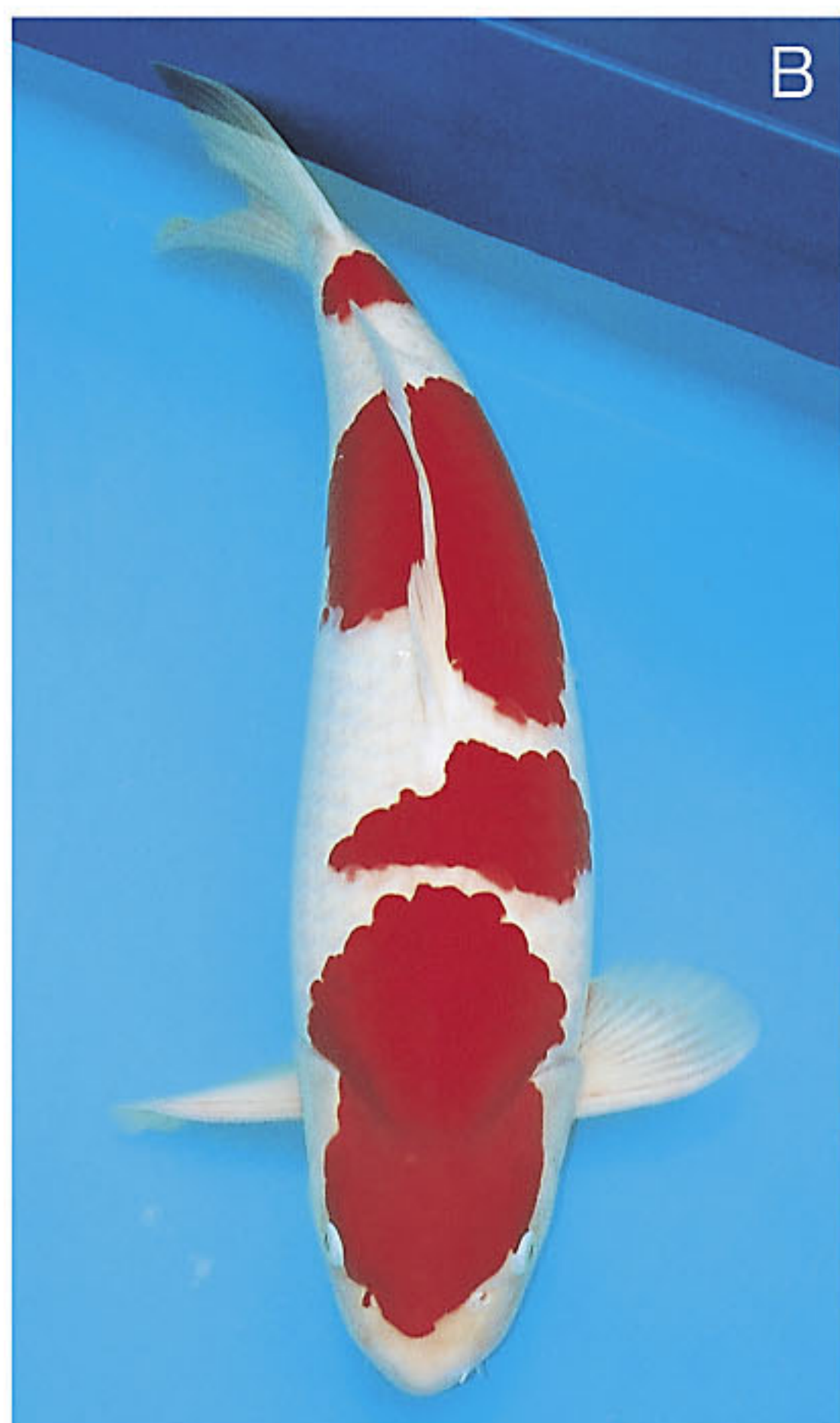
これは2才で、丸堂の社長さん秘蔵の鯉だったんですが、無理を言っ譲ってもらいました(③④—A)。半枚ザシがしつかりしていて、大きくなればなるほど締まってくるのではないかという鯉です。紅味も非常に良かったですね。

3才になるとサシも解決し、白地も出てきて(③④—B)、これからが楽しみです。

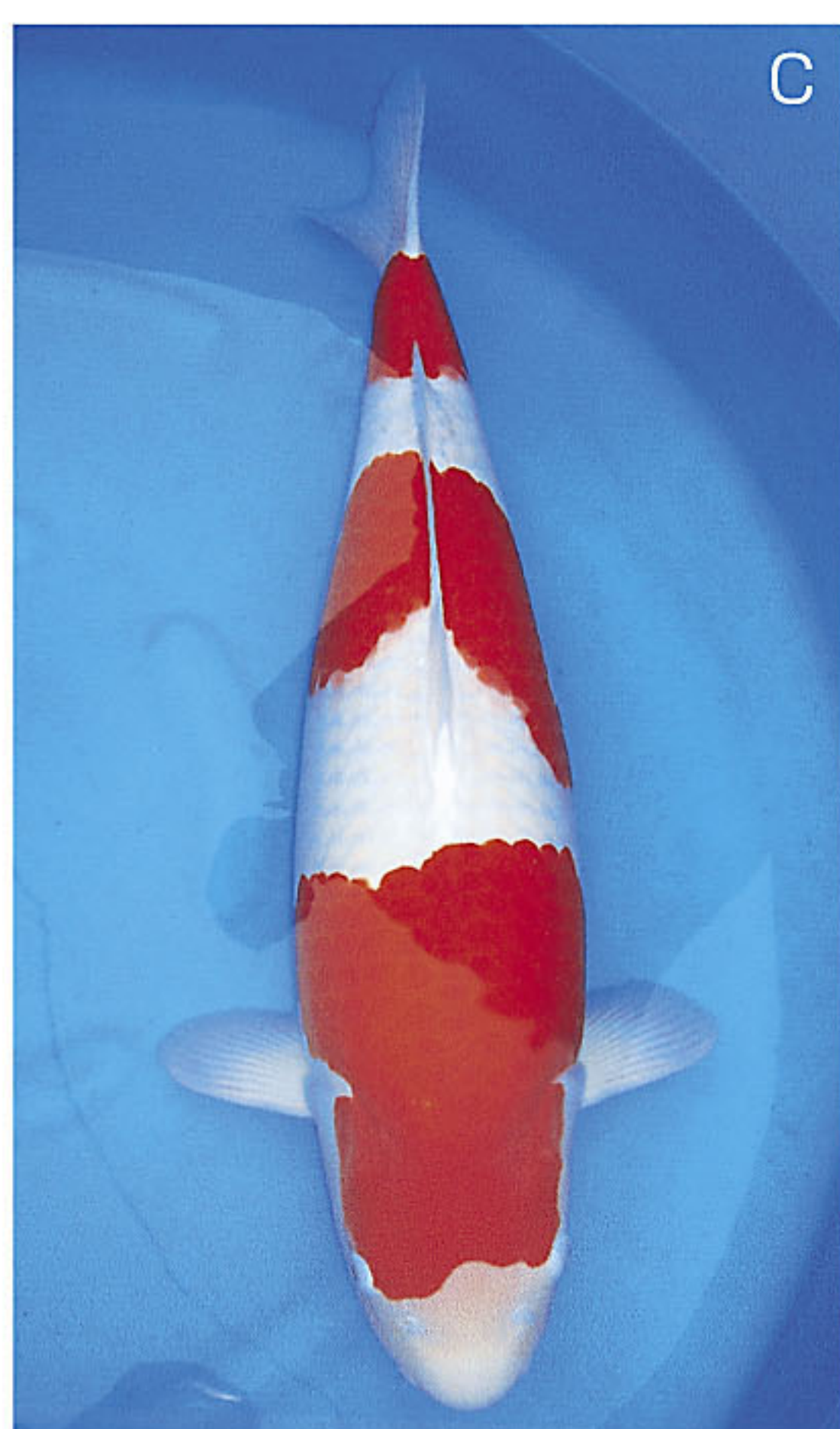
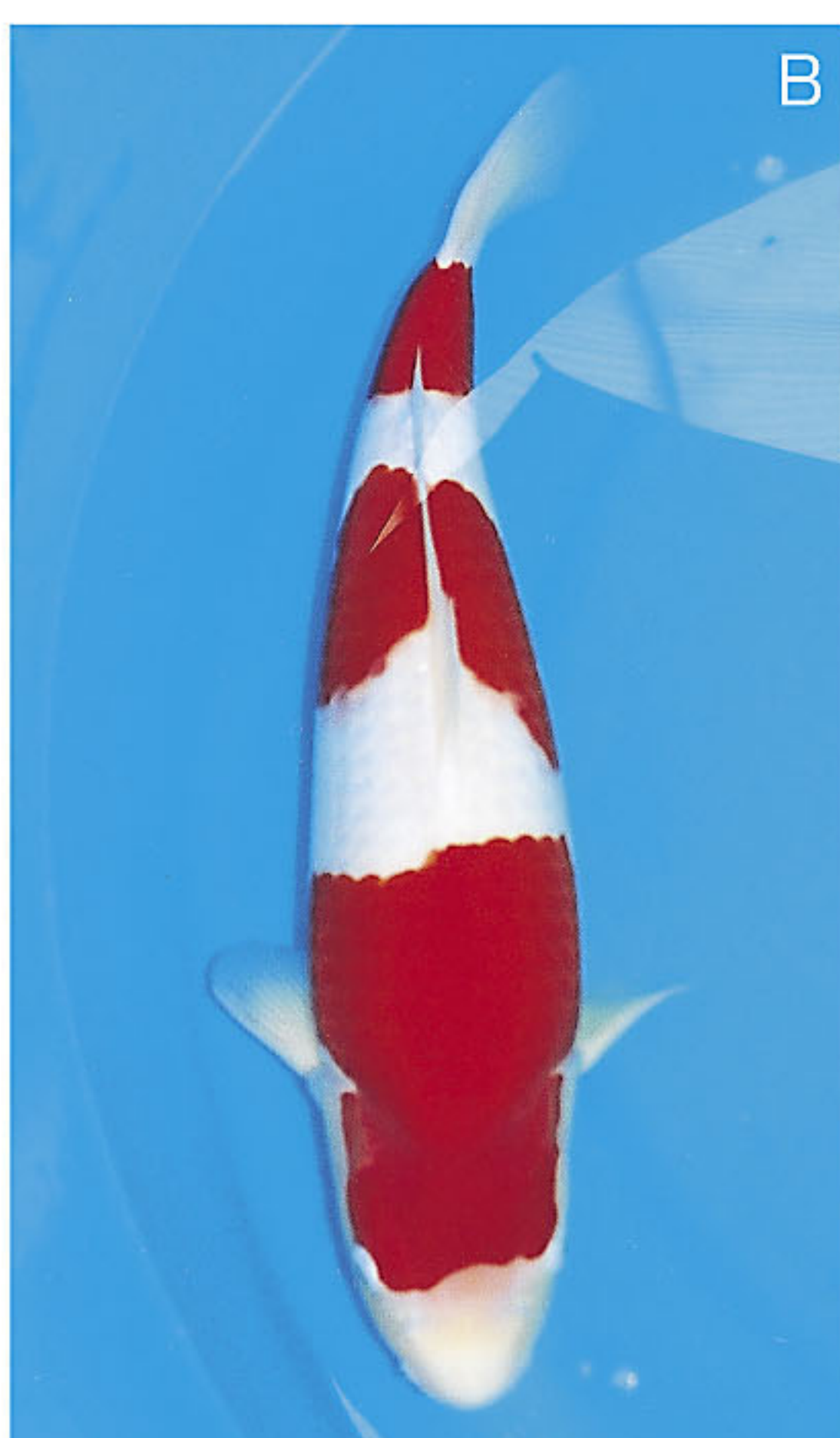
次は四段紅白です。これは2才ですが、小さいうちからかなり完成された体の鯉でした(③⑤—A)。伸びは固いですが仕上がりが早く、丸染めで、神楽の特徴が良く出ている鯉だと思います。

2才の時はまだ黄ばみもあったんですが、1年立てると肌が綺麗に抜

③⑤／丸堂紅白

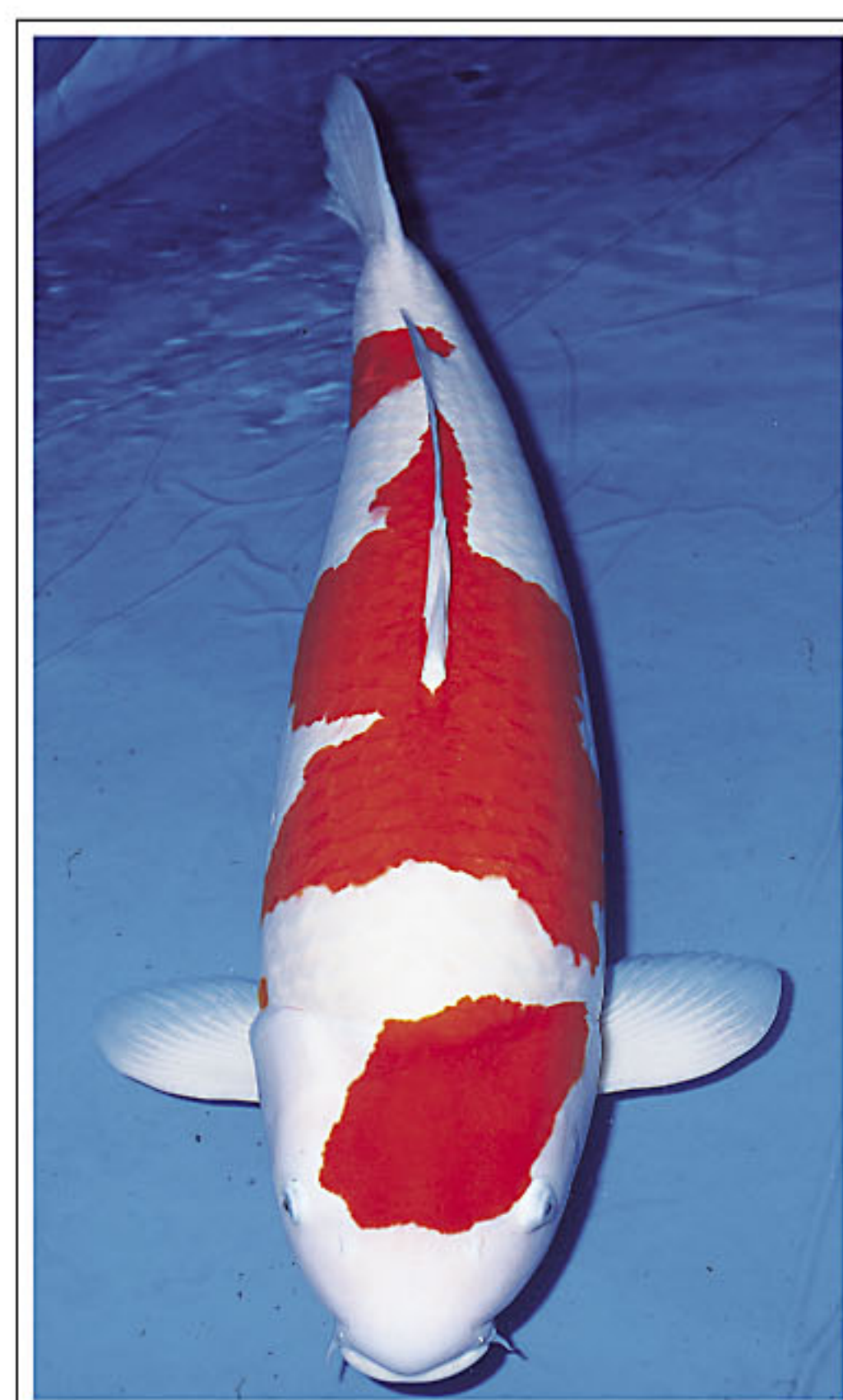


③⑥／丸堂紅白

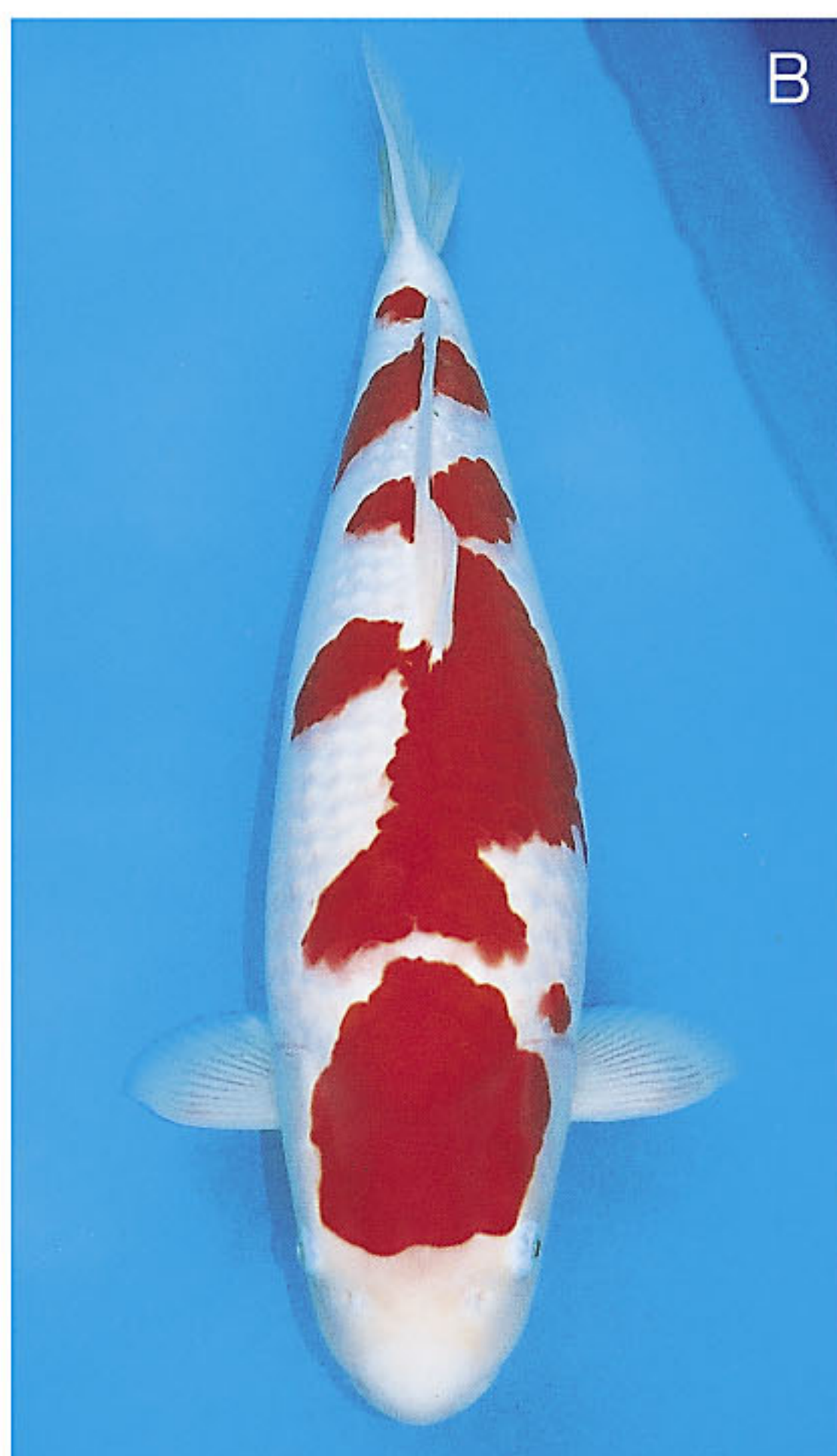


けてサシもカミソリのように締まっ
てきて仕上がりました(③⑤―B)。
そして関東大会で部総合を獲得しま
した。

今度は三段紅白です(③⑥―A)。
仙助のような体の作りで、丸堂にし
ては珍しい体型の鯉でした。2才の
時は粗削りでしたが、骨格がしっか
りしていて、社長も太鼓判を押して
いた鯉です。それで立てたんですが、
オスが入っていたらしく、激ヤセで
揚がってきました(笑)(③⑥―B)。
ただ、しっかりした鯉なので、細身



丸堂紅白親鯉



③⑦／丸堂紅白

で揚がっても崩れることはありませんでした。

そしてもう1年立て直し、今度は無事に揚がってきました(③⑥―C)。均整の取れた体つきで、紅もしっかりと厚みを増し、鱗目が見えないほどになりました。これは無事に生きていますので(笑)、将来を楽しみにしている1本です。

次は、ジャンボ賞(愛鱗会)などを取った90数cmの紅白を親(写真)にして採った子供のカシラです(③⑦―A)。この時は本当に細身の鯉だったんですが、神楽系統の特徴が良く出た紅で、模様も私自身とても気に入っていました。

これを1年立てて3才でこうなりました(③⑦―B)。ボリュームが付くと鯉は大きく変わりますね。サシも綺麗に締まってきました。そしてもう1年立てると、紅が良いピンク紅になり、白地も生きてきました(③⑦―C)。

以上、紅白の変化の過程を追って見てきました。もちろん全部が全部良くなるわけではないですが、こういった変化を楽しんでいただければと思います。

(おわり)